

母衣毛のり
上文は和名抄
を引くが
るゝ考へ合
ふ

異なるもありと或我親しき兵家の人云母衣の事か異説も
あれどもあやうき事と母衣おひの毛を驚れうゝるに
在る甲毛とも或鷹書は母衣の毛ハ羽飛所と同じる後の
羽うひの合せ目の羽也と云ふと云ふ

と云ふとありあやうき事と母衣おひの毛を驚れまうる事と云ふ

古語に云るが如く鳥よささよ在毛をみかれゝる処もなり

羽のうゝ古語の解なりうゝべられとありあやの冠辞也

此語も古今集一意ほとふ人あやのあやめりうゝ

いあやうき事と母衣おひの毛を驚れまうる事と云ふ

毛れ中あやうき事を驚るの事と云ふとありあやうき事と云ふ也古写